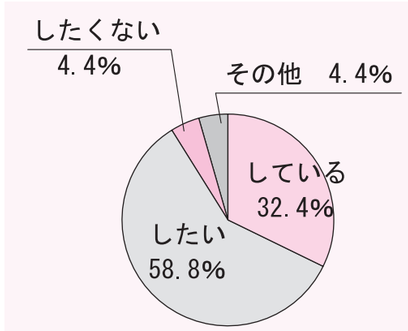
外国人に対するアンケート

昨年度、市職員有志による、在住外国人（２００人・回収率34％）対象にアンケートを実施しました。

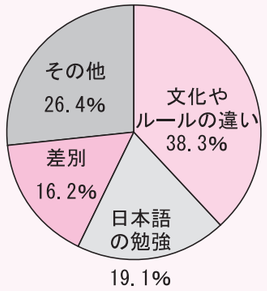
その中の設問（表４）で日本語の勉強について約59％の人が「したくない」と答えています。「したくない」と答えた人は約４％で、多くが日本語を学ぼうとする意欲があるようです。

別の設問（表５）において「困っていること」について尋ねると、「日本語の勉強」という項目を約19％の人が、「文化やルールの違い」という項目を約38％の人があげています。そして、「差別」について約16％の人があげています。

（表４）日本語の勉強は



（表５）困っていることは



動き始めています

これらのアンケート結果から、日本人が外国人へ要望したい項目と、外国人が困っている項目が一致しています。このことが、共生社会の実現への入り口になっていくのではないかと考えます。

住民ニーズをしっかりと把握した上で、日本人とか外国人とかは関係なく、みんなが住みよい美濃加茂市にしていかなければなりません。

昨年の「広報みのかも6月1日号」でお知らせしましたように、これまで共生のために多くの試みがされてきています。そしてさらに、市民レベルで共生社会の実現に向けての動きが広がっています。

同じ地域に住む住民として

18年度市自治連合会長
渡辺勝則さん（川合町）

苦情が多く寄せられた

昨年度自治会長をしていたとき、外国人に対する、ごみ出しや夜間の騒音などの苦情を大変多く受けました。

来日間もないので仕方ないかなと思いましたが、何とか生活のルールを理解して、美濃加茂市になじんでもらえないかと考えました。

そこで、彼らと話し合いの場を設けたいと考えましたが「言葉の壁」により進みませんでした。

みんな地域の住民

地域レベルでは自治会による活動が非常に大きな存在になっていると思いますが、彼らは自治会に加入していません。

しかし、日本人でも未加入の人が多くいます。だからといって、加入未加入関係なくみんな地域の住民のはずです。顔見知りになればコミュニケーションが取れます。

▲中央公民館でのポルトガル講座の様子

これができれば、同じ地域に住む人間として、災害が起きたときなどに大変役に立つと思います。

ポルトガル語講座

わたしは、自治会長時代の経験から、いつまでも行政任せではなく、地域住民自らが行動を起こさなければと思いました。

そこで現在、市のポルトガル語講座を受講しています。そのおかげで、近所の外国人とあいさつ程度はできるようになりました。

一度打ち解ければコミュニケーションを取ることは案外簡単にできます。

地域が好きだから

共生に関して、日本人市民の関心が薄いと感じています。古井地区では、約15％が外国人住民で、まちを歩けば必ずといっていいほど、その姿を見ます。

地域を守るのは、行政ではなく地域住民です。一緒に行動を起こしてみませんか。

新たな試みとしては、地域を守るという点で、自警団を巻き込んだ活動を進めようとしています。

はたから見ると物好きに思えるかもしれませんが、単純に地域が、地域に住む人が好きだから何とかしたいと思うだけです。

▲ポルトガル講座で楽しく学ぶ渡辺さん

「明けまして おめでとう」＝「¡Feliz Año Nuevo！（フェリス アーニョ ヌエボ）」スペイン語

子どもを思う心に国境はない

19年度古井小PTA会長
牧田秀憲さん（本郷町）

きっかけは３年前

古井小学校は、全国的に見ても外国籍のこどもが多いという特色を持った学校になっています。その学校のＰＴＡ組織に国際交流委員会を３年前に設け、ここから、わたしたちの国際交流に関する活動が始まりました。

子どもを育てる

古井小に通う外国籍の子どもは日本語を勉強して、子ども同士のコミュニケーションを取っていますが、多くの親は、日本語を話せない（勉強したくてもその機会がない）場合がほとんどというのが現実でした。

そうした親たちとコミュニケーションを取りたいという願いから活動内容を検討していきました。

ＰＴＡ活動については、すべての会員に、国籍に関係なく参加してもらう必要がありますし、「子どもを育てる」という共通テーマの下、日本の習慣や文化に触れてもらいたいと考えました。

言葉の壁

活動の内容を考えるときに、最も問題になったのは、「言葉の壁」でした。どうしたらこの壁を崩していけるか、みんなで検討して導き出した結論が「体を一緒に動かそう」ということでした。

ミニ運動会

▲「ミニ運動会」で楽しむ親子

昨年の11月に、ＰＴＡの主催で「ミニ運動会」を開催しました。

多くの外国人親子に参加していただき大変好評でした。参加した親の一人は「言葉の分からない習慣や文化が違う国で一生懸命働き、非常にストレスを溜め込んでいるので、体を動かしてストレスの発散になりました」と話していました。わたしたちの活動が少しでも人の役に立ったのなら、こんなにうれしいことはありません。

ＰＴＡ活動では、このほかに「おしゃべり会」や「弁当作り」なども開催しました。これらの活動は、コミュニケーションを取るためのきっかけ作りとして計画したものです。

自然体が一番

個人的な考えになりますが、「子どもを思う心に国境はない」と思います。

現実には「言葉の壁」が邪魔をし、親同士のコミュニケーションが取りにくい状態だったので、こうした活動を始めただけです。

基本的なところでは、日本人であるとか外国人であるとかは意識していません。同じ子を持つ親として対等な付き合いをして、情報や悩みを分かち合おうとしているだけです。

市内には多くの外国人が住んでいます。皆さんも一歩踏み出して交流してみてください。共生の近道は、差別や区別をするのではなく自然体が一番だと思います。

▲「弁当作り」で交流する保護者

「明けまして おめでとう」＝「新年好！（シン ニエン ハオ）」中国語